

地域で子育てのお手伝いしませんか？

ファミリー・サポート・センターは、子育ての手助けをしてほしい人「おねがい会員（利用会員）」と、子育ての手助けをしたい人「まかせて会員（提供会員）」が登録し、子どもの預かりなど一時的な子育てを助け合う有償ボランティア事業です。

こんなときにご利用ください

- ▼保育所への送迎、放課後の預かり
- ▼保護者の急病や通院、冠婚葬祭、外出時などの預かり
- ▼兄弟の学校行事の際の預かり など

活動時間

午前 7 時～午後 7 時（土日祝日含む）

利用するにはー？

- ①「入会申込書」を提出し会員登録。登録後、会員証を送付します。※申込書は、役場健康福祉課窓口にあります。
- ②ファミリー・サポートセンターに利用を申し込む。センターがまかせて会員に連絡します。
- ③両会員の顔合わせ & 事前打ち合わせ
- ④まかせて会員による子育てサポート（当日）
※ 2 回目以降は、センターへの利用申し込みだけで OK！（会員同士の顔合わせは必要ありません）

料金

- ▼ 1 人につき、30 分 250 円（1 時間あたり 500 円）
2 人目からは、30 分 100 円（1 時間あたり 200 円）
※ 30 分未満は切り上げ
- ▼ 食事やおむつなど必要な物品は準備してください。
- ▼ 料金は、おねがい会員がまかせて会員へ直接支払います。



会員になりませんか？

<おねがい会員（依頼会員）>

対象者 / 日野町在住の人
預かれる子どもの年齢 / 生後 2 カ月～小学 6 年生

<まかせて会員（提供会員）>

- 対象者 / 20 歳以上で子育て支援に意欲のある人
その他 / ▼資格等は問いません。
▼登録後に、年 1 回程度の講習会を開きます。
▼預かる子どもの年齢は、まかせて会員入会時に指定できます。

※入会金・年会費不要。おねがい会員・まかせて会員の両方を兼ねることもできます。

問合せ先 / 日野町ファミリー・サポート・センター（役場健康福祉課内）電話 72-1852

クーポン発行 / 風しん抗体検査・予防接種が気軽にできる！

風しんの予防接種は、現在公的に実施されていますが、下記の対象者は公的な接種を受ける機会がなく、抗体保有率がほかの世代に比べて低くなっています（約 80%）。そのため、町では、2022 年 3 月 31 日までの期間に限り、風しんを定期接種の対象とし、対象者にクーポン券を送付しています。

昭和 47 年 4 月 2 日～
昭和 54 年 4 月 1 日
生まれの男性

2019 年度
クーポン券発送済

昭和 37 年 4 月 2 日～
昭和 47 年 4 月 1 日
生まれの男性

2020 年
クーポン券発送予定

2019 年度に送付したクーポン券は、有効期限が 1 年間延長されました。

お手持ちのクーポン券の有効期限が「2020 年 3 月」と表示されていても、2021 年 3 月まで使えます。また、送付済みの人にも再度クーポン券を送付する予定です。お手元にクーポン券が 2 枚あることになりましたが、どちらでも使用できます。クーポン券を紛失しても再発行できます。お気軽に健康福祉センター窓口までお越しください。

問合せ先 / 町健康福祉センター（電話 72-1852）



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

さらに深刻な状況へ。 感染拡大する新型コロナウイルス

今月も新型コロナウイルスの話です。もういいと思われる方もおられるかもしれませんが、残念ながら、感染は更に深刻な状況になり、パンデミックとなりました。感染地の中心も中国からヨーロッパ、アメリカへと広がっています。

そして日本も毎日1000人、2000人と感染者の増加が報告され、オーバーシュートがすでに始まっているのかもしれない。コメディアンの志村けんさんも亡くなられました。発症してから2週間というあつという間の出来事でした。ご冥福をお祈りいたします。

東京や大阪などの都市部では、不要不急の外出をしないように呼びかけています。この要請に添えて多くの人は自宅で過ごしていますが、若者を中心に歩いている人も多く見られます。このような対応の違いは何から生まれてくるのでしょうか。

感染の過小評価は禁物。 周囲への影響を考えて

それは当事者意識の欠如と自分の行動が周囲へ与える影響を考えることのできない想像力の欠如、自分は大丈夫だろうと考えるバイアスです。

自分は若いから感染しても軽くすむという考えは、まだ感染していない人の病気に対する過小評価です。実際に感染すれば若くても0・2%の確率で死亡するとなると、途端に死が現実味を帯びて他人事ではなくなります。

たとえば、軽く回復しても感染時に自分の家族、父や母、祖父母に2次感染させれば、重大な結果を招く可能性は遙かに高くなります。

経済ダメージは政治力で。 未知の感染症を最優先に

また、都市封鎖（ロックダウン）や外出制限をするのと経済的なダメージが大きいと反対する人も多くいますが、治療法のない新型コロナウイルス感染症は感染すれば一定の割合で死亡者が出ます。

一方、経済的なダメージは政治的な施策によって減らすことが可能です。人の力によって対応できることとできないことを明確にすれば、人ではどうしようもないことを最優先にするのは当然のことだと思います。

感染拡大防止へ。意識を持って感染予防の取り組みを

4月1日現在、鳥取県にはまだ感染者は出ていません。しかし、これだけ都市部で多くの感染者が出ており、新学期、就職といった人の移動の激しいときです。なので、いずれ感染者が出ることは確実です。

防ぎようがないからと放置してはオーバーシュートが起こり、人口の70%から80%が感染して終

息に向かうという最悪のシナリオになります。

鳥取県の人口を50万として、70%が感染し、感染者の3%が死亡すると想定した場合、実に1万5000人が死亡することになります。各人一人一人が外出、移動を控え、感染予防を行えば、例えば移動が50%減少すれば、死亡する人が50%減るかもしれませんし、もっと効果が上がるとも考えられます。

未知のウイルスのため効果を確実に予測することはできませんが、自分ができるところはすべて行うという気持ちで取り組む必要があります。今こそ民度が試される時です。

